

# コードスイッチングとアイデンティティの揺れ

## —在日中国人留学生を対象にした一考察—

胡 穎傑 (南山大学大学院生)

森泉 哲 (南山大学)

### 1. はじめに

第二言語の習得過程を通して、新たな言語環境との相互作用により、個人のアイデンティティは変容していくと指摘されている(堀場, 2013)。アイデンティティ変容の言語的表現として、コードスイッチング(以下, CS)が挙げられる。また、留学という文化間の移動もアイデンティティを再構築していくきっかけになるという(Block, 2007)。そのため、異文化にいる留学生が言語環境の変化に伴い、様々なアイデンティティを保持しており、文脈・状況・他者との関係性によって異なるアイデンティティが顕在化され、その間を揺れ動く可能性があると言われている(Collier, 2009)。よって、本研究では、日本に留学している中国人学生を対象として、アイデンティティの変容や揺れがどのように言語的に顕在化されているのかについて、CSを例にとり、その一端を明らかにすることを目的とする。

これまでの研究では、話者の多言語使用を話し手の言語に対するマルチ能力の表現として認識され、会話の場面や相手との関係など社会的、文化的な側面からCSの機能分類を研究するものが多く見られるという(Andry, 2012)。例えば、会話内CSの機能分類に着目した代表として、Gumperz(1982)は談話分析の手法でCSの機能を、引用、聞き手の特定、挿入、繰り返し、メッセージの限定と個人的・客観的情報の区別の6分類に分けている(田崎, 2006)。

また、日本に居住する中国朝鮮族話者の朝鮮語から日本語または中国語へのCSを考察した権(2016)は量的と質的分析の両面からCSの機能を命題的機能、補償的機能、語用論的機能、社会的機能と談話調整機能の5種類に区別している。とりわけ、話者の言語習慣として日常に使用される言語表現は社会的機能として、話者のアイデンティティや社会的帰属意識の表出であると報告された。

このように、CSの機能に関する研究は散見されるものの、中国語・日本語バイリンガルのCSを中心に研究したものがほとんど見られない。また、上記の分類は包括的な分類であると考えられるが、一方、それぞれの下位カテゴリーの詳細な機能についてはあまり分析されていない。そこで、本研究では既存の先行研究の知見を参照した上で、日本で生活している中国人留学生を対象に、自然会話中に起こった話者のアイデンティティの表出と強い関連のあるCSの社会的機能を分析対象として絞って、それらの関連性について明らかにする。

### 2. 調査概要

調査対象者と調査の手続きは以下のとおりである。愛知県の大学に在籍している14名の中国人留学

生を対象に、異文化適応に関する内容を中心に、1時間程度の半構造化面接による個別インタビュー調査を行った。インタビュー調査の過程に使用する言語について、中国語と日本語のどちらでも構わないと対象者に教示されたが、全ての調査対象者は中国語を選択した。そこで、中国語で語られた会話の中で、日本語が使用された箇所をCSの生起と判断し、日本語がどのような文脈で発話されたのか、またそこから見られるアイデンティティの変容や揺れ動きを、筆者の解釈を踏まえて分析した。

インタビュー調査を実施した時点で、本研究の調査対象者全員が日本語能力検定試験1級を取得済であることを口頭で確認しており、また日本への留学期間も1～6年と多少のばらつきはあるものの、調査対象者の日本語能力は上級と見なすことができ、日中の文化経験も比較的豊かであると考えられる。また、調査を実施した際に、CSのことについて一切対象者に伝えていなかったため、インタビュー中に中国語から日本語に変換した箇所は全て自然会話の中に生じたCSと見なせる。そこで、アイデンティティの表出と関わるCSの社会的機能に絞って、中国人留学生の言語使用について分析を行った。なお、社会的機能以外のCSについては、本研究の対象外とした一方で、社会的機能と他の機能の両義的な働きを持つCSについては、本研究の対象とした。

### 3. 分析結果

#### 3.1 日中の文化差異への気づき：「有什么事情你不是先道歉，而是先言い訳的话，你会被别人认为不好。」

調査対象者のCSにおいて、最も多いパターンは一つの文の中で、ある特定の言葉のみを中国語から日本語に切り替えて発言したものである。

R：「有什么事情你不是先道歉，而是先言い訳的话，你会被别人认为不好。」

(何かがあった時、先に謝らずに言い訳を言っていたら、ダメな人だと見なされる。)

Y：「我觉得お疲れ様这么一个非常有重さ的词语被平凡地像一个あいさつ一样使用，会觉得很不适应。」

(お疲れ様という非常に重さのある言葉は普通のあいさつのように使われているのに適応できない。)

H：「当时就觉得大家都很優しい，都会来帮助你。」

(その時はみんな助けてくれて、日本人優しいなあと思った。)

以上のように、前後とも中国語である文脈の中で、対象者が「言い訳」、「お疲れ様」、「重さ」、「あいさつ」、「優しい」などの和語のみを日本語で語った。この現象をCSの社会的機能と関連付けて考慮すれば、対象者が和語を自然に使用することは、自分の言語習慣を表し、日本で生活している自分の社会的アイデンティティを示す側面が読み取れよう。しかも、このパターンのCSの多数は対象者が日本人に対するイメージや態度について言及した際に生じたため、対象者はCSを通して自分が感じた日中の文化差異の特徴を描く一方、日本社会で生活している自分の社会的アイデンティティも強調しているといえるであろう。

例えば、日本人は何事にも先に謝ることに対して、中国人は言い訳を先に探すと云ったRが「先に言い訳を言っていたら、ダメな人だと見なされる」と語ったように、Rにとって、「言い訳」は日本社会の規範に合わない行動だと思われるため、日本で生活している一員として、言い訳を探すと云う中国的な行動を抑えるべきであることをCSによって強調する。また、YとHの語りにも見られるように、中国人にとって重さのある言葉を普通に使用している日本人の言語習慣も、予想より優しくしてくれた日本人の助け合いも、対象者が日本社会で生活してから実感した日本人の特徴である。

### 3.2 日中2言語併用者としてのアイデンティティの顕現：「因为我们不认识路，所以电车地图查不了就很大变。」

上記のような中国語から日本語に切り替える CS のパターンの他，日本語の漢字を中国の読み方で表現する現象も確認された。

P：「因为我们不认识路，所以电车地图查不了就很大变。」

(道がわからないから，電車や地図を調べられないのは大変なことだ.)

L：「塑料袋有料了以后，我说你应该花钱去买更结实更大的塑料袋。」

(レジ袋が有料化になってから，もっと固い，もっと大きな袋を買うべきだと思った.)

C：「他说如果你一次都没有去过的话，他就会算你欠席，你要跟老师去相谈一下。」

(もし一回行ったこともなければ，欠席者と見なされるので，先生に相談する必要があると言われた.)

「大變」，「有料」，「欠席」，「相談」はいずれも中国語にない日本語の漢字言葉であるが，対象者がそれぞれの漢字が対照する中国語読みで発音して対話を続けた。自然会話の中で生じた言語現象であるため，3.1と同様に対象者の日常的な言語習慣と捉えられ，日本で生活している自分の社会的アイデンティティの現れと解釈できる。しかし一方で，このような使い方は中国語・日本語のバイリンガルでしか理解できないものでもあるため，日本語がわかる中国語母語話者の集団語として捉えることもできよう。換言すれば，対象者が CS を通して，日本語と中国語のバイリンガルである中国人留学生同士という集団的意識を聞き手である筆者と共有し，「日本語がわかる中国人」という日中2言語併用者としての集団的アイデンティティを強調していると考えられるであろう。

### 3.3 中国人としてのアイデンティティの表出：「前面的一个日本人就说：中国人うるさいね」

単語レベルの他，文単位の CS も多く見られた。

B：「前面有一个孩子在哭闹，他的父亲在斥责他，但他说的不是中文，然而前面的一个日本人就说：中国人うるさいね我当时真是很气。」

(私の前に歩いてきたお父さんが泣いていた子供を叱っていたが，中国語を話したわけでもないし，前の日本人が「中国人うるさいね」と言ってしまった。それを聞いて，本当に怒ったよ.)

Z：「老师一进来就跟我说“すみませんでした”，还说了好几回“ありがとうございました”。我就觉得没有必要。」

(先生が入ってきたら「すみませんでした」と言ってくれて，「ありがとうございました」も何度言ってくれたけど，それほど言う必要はないなあと思った.)

例のように，B も Z も第三者の話引用した際に，文単位で言語を切り替えた。これは第三者が語った日本語をそのまま引用した方が，より当時の状況を聞き手に再現できると判断して使用した CS の引用的機能の一つと考えられる。加えて，引用した箇所について語った対象者の評価が示されたことにより，引用した内容もしくは第三者との距離を保つ対象者の態度を示している側面もあると読み取れよう。証拠なしに中国人の悪口を言っていたような発言に対して，不満を感じた B が CS を通して不満な感情を表しながら，自分の中国人としての民族的アイデンティティを高揚する姿が読み取れる。類似的に，お礼の言葉を繰り返して言う必要がないと思っていた Z は CS を通して不理解を表示しながら，自分がそれほど言わない人であるという距離感を強調しているといえるであろう。

### 3.4 過去や未来のアイデンティティの表出：「留学以前就是一个わがまま的一个人。」

最後に，上記のような文化的・集団的アイデンティティとは異なる機能をもつ CS も確認された。

O:「留学以前什么都不懂，就是一个わがまま的一人っ子。」

(留学する前には何もわかっていないわがままな一人っ子だった。)

E:「我是想成为一个在国际世界上，就是国際的に活躍できる人这个方向的。」

(国際世界の方向に、いわゆる国際的に活躍できる人になりたい。)

例に挙げたように、O が留学前の自己について言及した際に、「わがまま的一人っ子」と語っており、E が未来の自己像を展望した際に、「国際的に活躍できる人」と話した。このような CS はこれまで述べてきた社会的機能の解釈に該当できず、上記のアイデンティティの現れと捉えることもできない。それゆえ、本研究の新たな知見として、自分の過去を振り返ったり、将来を想像したりする際に生じた CS は、話者が時間的境界や参照点を作り出し、異なるタイムラインにある自己を区別するための機能として働くと考えられる。つまり、バイリンガルが CS を介して、自己認識の違いを過去から未来という時間軸上で示しており、言語の切り替えに伴い、それぞれの自己が現れるアイデンティティの間を揺れ動いていると考えられよう。

#### 4. まとめと課題

本研究では、在日中国人留学生を対象に、中国語・日本語のバイリンガルが自然会話中に生じたコードスイッチングと話者のアイデンティティとの関係を、CS のパターンごとに分析した。その結果、文脈や状況などに応じて話者が日本で生活している人としてのアイデンティティ、中国人としての民族的アイデンティティ、日中 2 言語併用者としての集団的アイデンティティなど多様なアイデンティティの間を行きつ戻りつしながら、それぞれの態度や感情も示していることが明らかになった。しかし、CS の社会的機能では適切に解釈できなかった現象も確認されたため、今後さらに他の機能との関連性などにより詳細な研究を進める必要がある。

#### 参考文献

- Andry Sophocleous (2012). Switching code and changing social identities in face-to-face interaction. *Sociolinguistic Studies*, 5, 201-233.
- Block, D. (2007). *Second language identities*. NY: Continuum
- Collier, M. J. (2009). Negotiating intercommunity and community group identity positions: Summary discourses from two Northern Ireland intercommunity groups. *Negotiation and Conflict Management Research*, 2, 285-306.
- Gumperz, J. J. (1982). Conversational code switching, In J. Gumperz (Ed.), *Discourse strategies*. Cambridge: Cambridge University Press. (井上逸兵・出原健一・花崎美紀・荒木瑞夫・多々良直弘訳 (2004) . 認知と相互行為の社会言語学 ディスコース・ストラテジー 松柏社)
- 堀場裕紀江 (2013) . 第二言語とアイデンティティ : 言語文化教育学の観点から 言語科学研究 : 神田外語大学大学院紀要, 19, 37-56.
- 権 成花 (2016) . 日本に居住する中国朝鮮族の言語使用 — 内的場面におけるコード・スイッチングの使用を中心に — 千葉大学大学院人文社会科学研究所研究プロジェクト報告書 307, 相互行為における接触場面の構築 接触場面の言語管理研究, 13, 73-94.
- 田崎敦子 (2006) . コードスイッチング研究の概観 — 多言語社会のコミュニケーション分析に向けて — 言語文化と日本語教育, 2006 年 11 月増刊特集号, 54-84.